

# 病害虫発生予察注意報 第1号

富山県農林水産総合技術センター所長

## シロイチモジヨトウの多発に注意

シロイチモジヨトウの成虫が、県内のネギほ場で、平年より多く確認されています。今後、本幼虫による被害の拡大が懸念されるため、防除の徹底が必要です。

### ◎病害虫名 シロイチモジヨトウ

1 作物名：ネギ、その他野菜・花き類

2 発生地域：県下全域

3 発生程度：多い

#### 4 注意報発令の根拠

(1) 県内5か所に設置したフェロモントラップ調査において、5月6半旬～6月5半旬の累計誘殺数は、**96.0頭（平年24.4頭）と平成12年の調査開始以来、最も多く確認された**（図1）。シロイチモジヨトウは、9月にかけて増加する傾向があるため、今後、被害の拡大が懸念される。

(2) 新潟地方气象台によると、北陸地方の7～9月の気温は、平年より高いと予想されており、シロイチモジヨトウの活動が活発になると予測される。

#### 5 防除対策及び留意事項

(1) ほ場を見回り、卵塊や幼虫が付着した葉は、ほ場外へ持ち出し、処分する。

(2) ネギの葉身内や結球する葉菜類の内部に侵入した中～老齢幼虫は薬剤の効果が低くなるため、若齢期までに表を参考に薬剤防除を実施する。

(3) 被害が散見される場合は、7日間隔を基本に薬剤散布を実施する。なお、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統の薬剤使用は避け、ローテーション防除を実施する。

(4) 交信かく乱剤を用いる場合は、薬剤散布後の発生密度が低下したタイミングで設置する。

【参考資料】

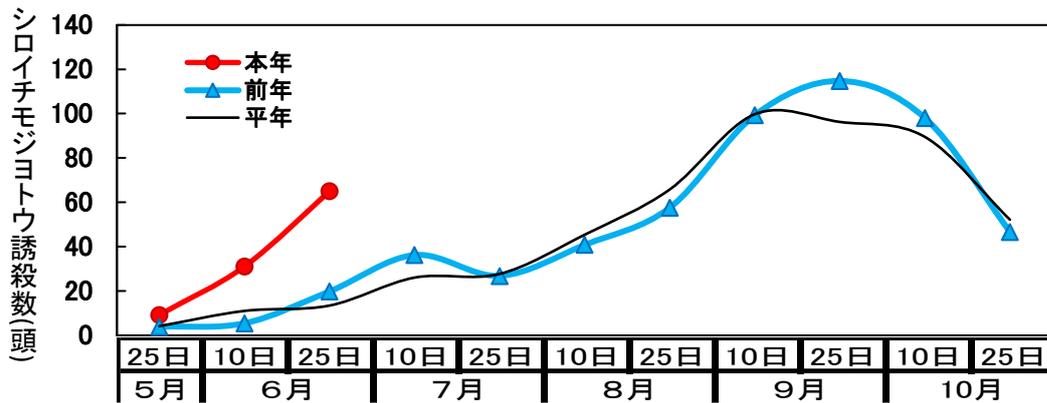


図1 シロイチモジヨトウの誘殺数推移(県内5か所平均)



図2 トラップに誘殺されたシロイチモジヨトウ(成虫)



図3 葉を食害するシロイチモジヨトウ(中齢幼虫)



図4 シロイチモジヨトウ幼虫によるネギの食害

表 ネギにおけるシロイチモジヨトウに対する防除薬剤

農薬の名称	希釈倍数又は使用量	使用時期	使用回数	使用方法	散布量 (L/10a)	系統 IRACコード
アグロスリン乳剤	1,000	収穫7日前まで	5	散布	100~300	3A
アニキ乳剤	1,000~2,000	収穫3日前まで	3	散布	100~300	6
マトリックフロアブル	1,000~2,000	収穫7日前まで	3	散布	100~200	18
ディアナSC	2,500~5,000	収穫前日まで	2	散布	100~300	5
プレバソフフロアブル5	2,000	収穫3日前まで	3	散布	100~300	28
ダブルシューターSE	1,000	収穫3日前まで	3	散布	100~300	- 5

問合せ先  
 農業研究所 病理昆虫課  
 TEL 076-429-5249 FAX 076-429-2701